

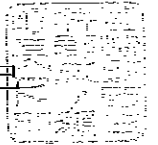


五建発第418号

平成20年10月14日

国土交通省道路局長 殿

五ヶ瀬町長 飯干辰巳



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月20日付け、国道企第37号で依頼のありました標記の件について、別紙のとおり提出します。

（文書取扱 環境建設課）

道路等のインフラ整備は、あくまで地域づくりの手段であって目的ではないと私たちはいつも考えています。それも道路整備が実施される該当自治体のみならず周辺自治体（かなり広範囲）の地域づくりまで影響を及ぼすものこそが真に必要な道路整備でないかと考えます。単なる費用対効果論だけで議論が終始するのではなく広域的なまちづくり論も併せ検証することが必要でしょう。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ②

②-1 地域の現状と抱える課題

宮崎県 五ヶ瀬町

○現状

まちづくりの指針となる第4次長期総合計画(H13～H22 年度)では、定住人口の増加から交流人口の確保と増加による地域活性化を目指すことを本町の地域づくりの新たな視点として捉えています。

それに基づきこの間まちづくりの施策を展開しています。九州のまんなかに位置する地理的優位性を発揮し、北部九州都市圏を交流ターゲットにグリーンツーリズム事業に取り組んでいます。いまや中国やシンガポール、台湾など多くの東アジアの方々が訪れるまでになりました。

○課題

地域経済の浮揚は1つの自治体のみの努力や取り組みで叶う現状ではありません。近隣自治体や広域行政組合等と連携した取り組みが必要不可欠となっています。地域づくりの方向性を共有し経済効果を圏域全体でより高めていくためには、最低限のネットワーク(道路網)が必要となってきます。あれもこれもではない、「ここだけは」あるいは「こここそ」は整備が必要と、首長が判断要望している箇所は尊重いただきたいと思います。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ③

②-2 地域の目指すべき将来像

宮崎県 五ヶ瀬町

本町のみならず圏域(椎葉・諸塚・日之影・高千穂)全体が、個性豊かで感性あふれるキラリと輝く地域を目指したいと考えています。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

宮崎県 五ヶ瀬町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上 (圏域全体の 活性化底上げ)	主 要 地 方 道 竹 田 ・ 五 ヶ 瀬 線 整 備 促 進 (高 千 穂 ・ 夕 塩 ～ 五 ヶ 瀬 町 ・ 土 生 の 整 備)	本圏域の観光客数の推移を見てみると、平成18年に対し平成19年は16.4%増の2,125,991人となっています。本県随一の観光地高千穂町は20.4%、本町(五ヶ瀬町)が18.6%アップと際立った結果となっています。 高千穂町は東国原知事効果、五ヶ瀬町は竹田・五ヶ瀬線沿線にグランドオープンした五ヶ瀬ワイナリー効果が最大要因だと推察しています。一方で日之影町は4.6%、椎葉村、諸塚村は横ばいとなっています。 それぞれ特徴的な地域づくりを展開する魅力的な地域です。もっともっと訪れる人は増えてしかるべきだと普段から思っています。上記(代表事例)道路整備が進むと人の流れはドラスティックに変化します。回遊性がさらに高まり圏域での滞在時間は確実に長くなるものと思われます。県下トップの観光地高千穂町が課題として抱える町内宿泊客数のアップの有効手段であることは間違いありません。また、五ヶ瀬町が展開するグリーンツーリズム事業による東アジアからの来訪客も飛躍的に伸びることでしょう。そのことが他の自治体で整備が進む道路整備と相俟って圏域全体の地域活力に繋がっていきます。 例えば椎葉村で進R265 整備(椎葉～五ヶ瀬)効果も、前述した竹田・五ヶ瀬線整備と重なり合えば椎葉への人の流入は現在の数倍になると確信しています。これからの道路整備の有り様は、多くの自治体及び圏域に多面的に影響を及ぼす個所が優先されるべきものと思います。	